

静岡のエトランゼ～静岡を愛し、静岡で活躍した外国人たち～

郷土史家 黒澤 脩

第24回

マッケンジー夫妻の贈物



マッケンジー邸 (W.M.ヴォーリーズの作品で大変貴重な建物)

静岡茶を米国へ輸出した人物の中には、静岡市と縁が深いダンカン・マッケンジー氏があります。マッケンジー氏の来日は1918年でした。清水港から静岡茶を大々的に輸出し、おおいに儲けたことも事実でした。しかしこの間に日本茶輸出業者協会を組織し、また米国では米国茶業組合委員、同業組合調停委員会議長や日本茶委員会議長も務め、茶業輸出関係者の中では指導的地位にあったばかりか、教養と博識に恵まれた魅力的な人物だったといわれています。

ダンカン・マッケンジー氏は、日本の文化と歴史に造詣が深く、

静岡時代には多くの骨董のコレクターでもありました。ところが1951年、持病のため静岡で永眠されましたが、妻のエミリーさんは、その後も静岡に滞在し福祉活動に尽力していました。ところが高齢のため、遂に米国に帰国する決意をします。その際、静岡市に数多くの文化財を寄贈して帰国されました。例えば静岡市文化財に指定された「東海道函屏風」があります。これは江戸初期の作品で、江戸・京都間の名所や旧跡が美しく描かれ、駿府城下町の部分には天守も見事に描かれております。この屏風には、駿府がひとときは力強く描かれていることに気がつきませんが、理由は駿府が江戸初期の家康の街として国内外から注目されていたからであると思われまます。

マッケンジー夫人は、この屏風の価値を認識し、自分が米国に持ち帰るよりも縁の静岡市の財産として残すことを優先し、静岡市民に寄贈したと考えられます。ダンカン・マッケンジー氏は、静岡(駿府)の歴史もよく勉強していました。ここでは是非紹介したいことは、昭和九年

静岡市役所が建設されましたが、その時に氏はロータリークラブでこんな講演をしております。それは、静岡の歴史を市庁舎完成とともにモニュメントを造り市民の記憶として歴史を後世に長く残すことを提案したのです。講演の中から、一部を紹介しま

(原文)

(前略) I believe, Gentlemen, that we have ample reason on account of certain events of great historical importance which occurred in our City many years ago. If the Citizens and residents of Shizuoka desire to present the City with such monument or fountain, I would suggest, Gentlemen, that the base of the monument be arranged in such a way as to permit four bronze plates or tablets to be used recommending historical events connection with the life of our city. (略)

(意訳) 「皆さん、私は静岡市でかつて起こった歴史的に重要な

ある出来事のために、これには十分な理由があると信じています。もし、市民が市に記念碑や噴水を贈呈したいと要望したら、私は、記念碑の土台に市の歴史と歴史的出来事を表す4つの青銅製のプレートか銘板を配置したほうが良いと提案します。」と述べ、マッケンジー氏の発想は次の四点を強調しています。それは、①大航海時代の駿府を世界に知らせたい②そのためには、市役所の完成(昭和九年完成の市役所のこと)を記念して噴水を造る③噴水の回りには静岡を訪れた大御所時代の外国人のレリーフを刻む④記念するにふさわしい興味深い歴史的事実を展開し市民の記憶に長く刻むと良いと提案したのであります。

マッケンジー夫人は、慣れ親しんだスペイン風の洋館と多くの土地や財産(骨董品)を静岡市に寄贈し、1973年9月カリフォルニア州パロアルト市で他界されました。静岡市は、マッケンジー夫人を静岡に滞在中の1959年静岡市名誉市民第一号として顕彰しています。

※エトランゼ：フランス語で外国からの旅行者、異邦人という意味